

経済・金融 フラッシュ

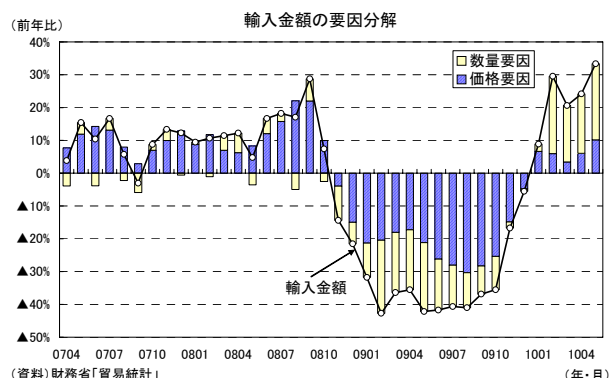
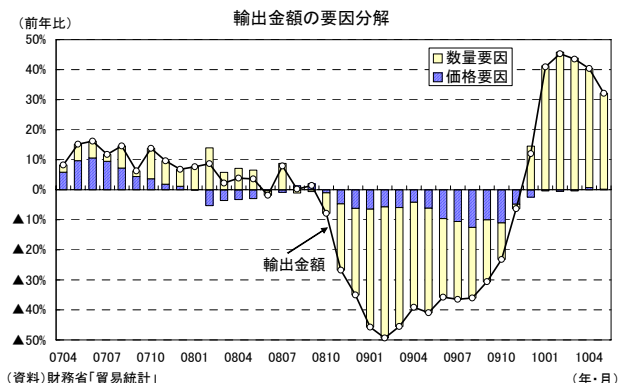
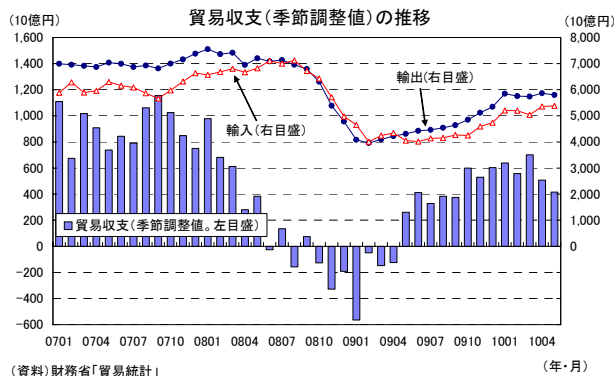
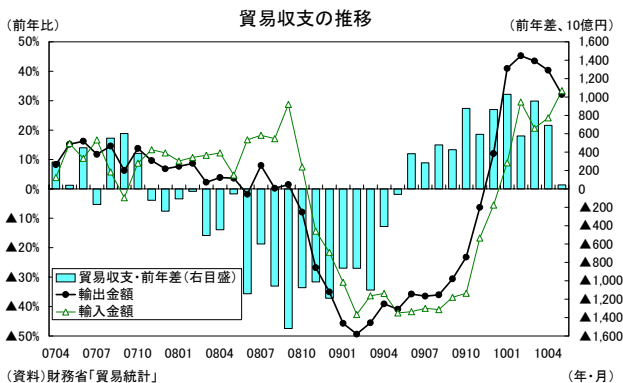
貿易統計 10年5月 ～輸出の伸びが大きく鈍化

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出の伸びが大きく鈍化

財務省が6月24日に公表した貿易統計によると、5月の貿易収支は3,242億円の黒字となり、12ヵ月連続で前年の水準を上回ったが、事前の市場予想(ロイター集計:4,800億円、当社予想は5,576億円)は下回った。輸出が前年比32.1%(4月:同40.4%)と伸びが大きく鈍化する一方、輸入の伸びが前年比33.4%(4月:同24.2%)と大きく高まったため、前年に比した貿易収支の改善幅は前月よりも大きく縮小した。季節調整済の貿易収支は4,161億円と13ヵ月連続の黒字となったが、黒字幅は前月の5,077億円から縮小した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比31.9%(4月:同39.5%)、輸出価格が前年比0.2%(4月:同0.6%)であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比22.2%(4月:同

17.6%)、輸入価格が前年比 9.2% (4月:同 5.6%) であった。なお、このところ輸入価格の上昇率が高まっているが、これは原油価格上昇の影響が大きい。

2. アジア向け輸出が低調

自動車輸出は前年比 51.9% となり、4月の同 103.0% から伸びが半減した。米国向け (4月:前年比 105.3% → 5月:同 23.4%)、EU 向け (4月:前年比 49.7% → 5月:同 2.0%)、アジア向け (4月:前年比 113.8% → 5月:同 56.0%) のいずれも伸びが大きく鈍化した。一方、中東向け (前年比 202.1%)、ロシア向け (前年比 316.3%) は急増を続けている。

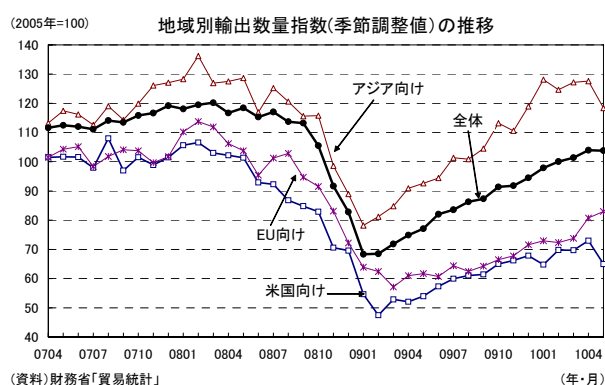
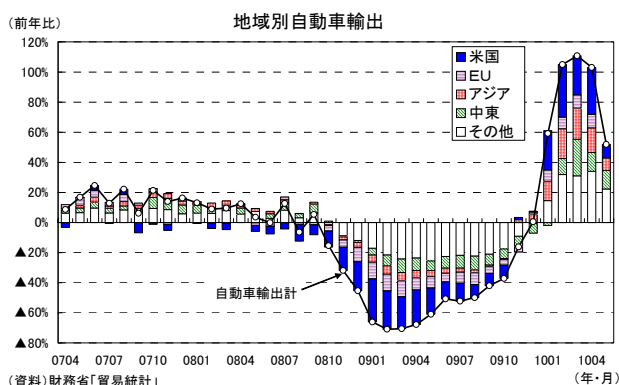
5月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 20.3% (4月:同 39.8%)、EU 向けが前年比 34.7% (4月:同 32.4%)、アジア向けが前年比 28.2% (4月:同 40.6%) となった。

季節調整値 (当研究所による試算値) では、米国向けが前月比 ▲11.0%、EU 向けが同 2.7%、アジア向けが同 ▲7.2%、全体では同 ▲0.1% となった。1-3 月期に対する 4、5 月の平均は米国向けが 1.3%、EU 向けが 12.1%、アジア向けが ▲2.9%、全体では 4.1% となっている。

欧州信用不安、ユーロ安の影響から EU 向けの輸出の落ち込みが懸念されているが、EU 向けの輸出は足もとではむしろ好調となっている。一方、これまで輸出の牽引役となっていたアジア向けが低調となっているが、中国の貿易統計では輸出入ともに好調を維持していること、5 月はゴールデン・ウィークの関係で貿易統計の振れが大きくなりやすい月であることからすれば、アジア向けの輸出が腰折れしてしまったとの判断は早計だろう。

輸入数量指数 (季節調整値) は前月比 1.8% の上昇となった。4、5 月の平均は 1-3 月期よりも 1.8% 高い水準となっており、国内需要の持ち直しを背景に輸入は底堅い推移が続いている。

4-6 月期の GDP ベースの輸出入 (財貨・サービス) はともに前期比で増加を維持する可能性が高い。ただし、輸出の伸びは 1-3 月期の前期比 6.9% からは鈍化することが見込まれるため、外需寄与度は 1-3 月期の前期比 0.7% から縮小することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。